

# 森林と共に生きる未来



木の種類について熱く語る益岡さん（自身の工房にて）

高知県は森林率日本一を誇る「森の県」。その豊かな森を守り、未来へつなぐために活動しているのが、私たちジビ工部だ。森林保護を目的に、鹿肉を活用した商品を開発・販売し、その収益を森林保護団体へ寄付している。

今回、私たちは高知県の小さな木工工房「M-CRAFT」を訪ね、森との暮らしがと木材活用について

て学んだ。M·CRAFT は、高知県産ヒノキや杉を使った木製家具や雑貨を製作する工房だ。注文家具は図面通り正確に仕上げる一方、自ら製作する家具には、「遊び心」を加え、使うほどに味わいが増す無垢材の作品を生み出す。益岡寿夫さんが手がける家具は、生活感を抑えたデザインも特徴で、ティッシュケースなど日用品をインテリアに溶け込ませる工夫が光る。

今回の訪問で印象的だったのは、鹿などの食害を受けた木材の活用についてだ。被害木は商品化が難しい場合もあるが、小さく加工すればおもちゃや小物づくりに活かせる可能性がある。私たちの活動で守ろうとしている「木」は M·CRAFT にとっては「使う」対象でもある。このジビエ部との「守る側」と益岡さんと

なるアプローチだが、目指す先は同じ「森と共に生きる未来」だ。今回のインタビューを通じ、森と人のつながりは「方向ではなく、多様な循環の中で成り立っていることを学んだ。食害という森の課題も視点を変えれば新たな資源となり、木工や私たちの食文化へと形を変える。

MICRAFTとジビエ部は、これからも守るべき森の価値を次の世代へつなぐ。

しての「使う側」という立場の違いこそが、森と人との多様な関わり方を示していると感じた。

森林を守るために、野生獣による被害を防ぎ、伐つた木を無駄なく使うことの大切だ。M.C.R.A.F.T.の仕事はまさにその実践であり、高知の森の恵みを暮らしの中に届けている。

# 小さな工房から広がる未来

# 高知の森と人をつなぐ架け橋

益岡寿夫さん  
に会社のこと  
や働くことの  
あれこれを聞  
きました！



# 教えて！ 益岡寿夫さん

Q 最近ハマっていることはあります。A 家で、なんどの置物を作っているのにハマっています。自

Q 仕事とつながる趣味は?  
A 家の扉を改良したり、遊  
び心のあるビリヤード  
台やホッケー台などを作  
つたりすることです。

Q 未来・メッセージ編  
Q 作品に込める思いは?  
A お客様と直接会うこ

A 父がもともとしていて一緒に作っているうちに自分もしたくなつたからです。

Q 一番の苦労・やりがいは?

A 毎日です。受注家具は

図面通りに作るけれど  
材料が違うと長さの誤  
差が出てくるので、調整  
するときに頭を使うか  
らです。

——編集後記

今回、M·CRAFTを訪れました  
そこで、木を暮らしの中で活かす工夫に驚きました。工房で実際に木で作  
いている小さな家を手に取った時、追  
かみと木の香りを強く感じました。  
森を守ることも使うこともどちらか  
私たちの暮らしに密接につながっています。皆さんも身近な森の恵みに目  
に向けてみてください。



高知商業高等学校  
ジビエ部 Bチーム

# ものメッセKOCHI2025 第14回高知県 ものづくり総合技術展

2025年(令和7年)  
**11月15日**  
土曜日

発行所  
高知市立  
高知商業高等学校  
ジビ工部Bチーム

協力  
株式会社高知新聞社

# 号外

取材の様子はコチラ!  
ものメッセ  
KOCHI2025

